

最終回

第5回高度情報セキュリティ実践講座の報告

2007年1月22日

NPO法人電子自治体アドバイザークラブ

<http://e-aac.naist.jp/e-AAC/>

第5回 高度情報セキュリティ実践講座の概要

日時: 平成19年1月19日(水) 受付: 13:00 ~ 13:30 講座: 13:30 ~ 16:50

会場: 国際奈良学セミナーハウス (近鉄奈良駅より、徒歩10分)

参加者: 31名、 内訳: 自治体関係者 9名、 企業関係者 10名、 一般 12名

講演 - 1: インターネット時代のネットワークリテラシー 13:30 ~ 15:00

帝塚山大学 経営情報学部 経営情報学科 教授 日置慎治氏

【概要】

インターネットに代表されるネットワーク社会においては便利な側面が多い反面、さまざまな危険性については周知の事実である。ネットワークの知識なしに利用するほど危険なことではない。もっとも賢明な方法は、ネットワークの仕組みと可能性についての必要な知識と技術を身につけたうえでインターネットを正しく活用することであろう。インターネット時代に必要なネットワークリテラシーを紹介したい。



【講師のプロフィール】

帝塚山大学 経営情報学部経営情報学科教授 (URL: <http://www.tezukayama-u.ac.jp/Teacher/>)
学外研究活動・経歴: ゴードン・ベル賞受賞(95)、KSVF ベンチャービジネス大賞特別賞受賞、
シスコ認定アカデミックインストラクター、日本物理学会、情報処理学会、日本計算工学会

講演 - 2: コンピュータウイルスの脅威と対策

15:10~16:40

帝塚山大学 経営情報学部 教授 博士 公認システム監査人 高瀬宜士氏

【概要】

IPAの発表によると、2005年の年間ウイルス届出件数は54,174件となり、2004年の52,151件を超える史上最多の件数となった。実際にパソコンに感染したケースは毎年減少する傾向にあり、2004年には1.2%、2005年はわずか0.4%にとどまった。メールサーバへのウイルス対策ソフトの導入など、セキュリティ対策への意識が向上している状況が伺える。また、届出されたウイルスは171種類(2004年142種類)で、そのうち2005年に初めて届出されたウイルスは51種類(2004年53種類)であった。

2005年の実績で、日本国内のウイルス届出件数では、Netskyが最も多く、23ヶ月連続で過去最悪を更新中である。最近の多くのウイルスは、ウイルス感染しているパソコンの特定が難しいのが重大な問題である。被害の拡大を食い止めるには、個人ユーザーや中小企業を含め、インターネットに接続しているすべてのユーザーに対して、ウイルス対策の重要性を認識させることが重要である。



【講師のプロフィール】

帝塚山大学 経営情報学部 教授 博士(国際公共政策)、公認システム監査人
総務省電子政府推進員、システム監査学会理事、日本セキュリティマネジメント学会理事、
日本社会情報学会評議員、情報システムコントロール協会大阪支部理事、e-AAC シニアアドバイザー

「高度情報セキュリティ実践講座5回シリーズ」終了に当たって

総括

高瀬座長から、5回にわたって行われた「高度情報セキュリティ実践講座」の総括のお話があった。情報セキュリティの対策には、絶対安全というものはない。常に、いくつかの対策を複合的に行うことが重要であるとのお話であった。

5回の講座に参加された延べ人数は、174名であった。このうち、5回の講座に皆勤された方は10名であった。10名の方に、高瀬座長から「修了証」を渡された。

修了証の授与(5回出席者、10名)



修了証

殿

あなたは帝塚山大学高瀬研究室と特定非営利活動法人電子自治体アドバイザークラブとの共催による「高度情報セキュリティ実践講座5回シリーズ」においてすべての課程を修了したことを証します

平成19年1月19日

帝塚山大学 経営情報学部 教授
NPO 法人電子自治体アドバイザー
クラブ
シニアアドバイザー

所感

1. インターネット時代のネットワークリテラシー (帝塚山大学 日置教授)

インターネットが生まれてきた歴史的な背景の説明があり、米ソの冷戦による軍事的な必要性からインターネットが生まれてきた。スプートニク・ショックから米国における科学技術の振興策により、障害に強いネットワークとして分散型の ARPANET がインターネットに発展した。コンピュータが作られた背景も、戦争が動機となっている。その後、コンピュータ、地球シミュレーション等で、米国を驚かせて大きな衝撃の経過を経て発展してきている。ネットワークの概念、ネットワークアドレスとネットワークの構成の説明があり、ルーターの必要性や役割についての解説があった。続いて、暗号の原理について、及び暗号化について分りやすく解説があった。紀元前にシーザー暗号が生まれており、現在利用されている、共通鍵方式や公開鍵方式の開設があった。暗号の世界も戦争と共に発展してきている。頭の良い人がいるものだと関心した。

2. コンピュータウイルスの脅威と対策 (帝塚山大学 高瀬教授)

亀田(ボクシング選手)ウイルスの由来の説明により、ウイルスに感染する経緯が理解できる。日本人と外国人の国民性の違いにより、セキュリティの意識に差があった。一般的に、日本人は、性善説の信奉者、島国の安全性、村社会、災害の規模が小さい、などの国民性により、セキュリティ意識が低かった。しかし、インターネットの世界では、性弱説、国境はない、ライフスタイルの変化/ビジネスのボーダレス化、組織の社会的責任、個人情報漏洩事件、セキュリティ対策による組織の価値の増大、などにより、セキュリティ対策の重要性を認識し始めている。脅威・リスク・脆弱性、ウイルスの届出件数、被害状況、などの説明があった。広義のウイルスには、「マルウェア」とも呼ばれるワーム、スパイウェア、ボット、及び「スピア(槍)型ウイルス」として DoS 攻撃と言われるものがある。感染後の動作、情報漏洩の概念、だましの手口、などの説明に加えて、ウイルス感染防止の基本対策、無料でできる各種対策の説明があった。完全な対策はないが、面倒でも、適宜、対策ソフトの更新に努めることが重要である。

講座風景



懇親会 17:30～19:00

・会場:大和路 (ラインハウス 5階、近鉄奈良駅前)

両先生を交えて、セキュリティ講座で質問できなかったことや、日頃おていることなどを話題にして、意見交換の場となった。行政職、企業社員、一般の方など、立場の違った方々が気軽に話し合える場は、あまりないので、本日は非常に有益な懇親会であった。

事務局より、

アンケート調査にご協力いただき、有難う御座いました。e-AACの活動に参考にさせていただきます。今年度は、「GIS実践講座」、及び「高度情報セキュリティ実践講座」を進めてきました。地域のITリテラシーの向上に努めてまいりますので、今後とも、ご協力とご支援をよろしくお願い致します。

--

【共催】: 帝塚山大学 経営情報学部 高瀬研究室
NPO 法人電子自治体アドバイザークラブ(e-AAC)
(<http://e-aac.naist.jp/e-AAC/>)

【後援】: 近畿経済産業局、奈良県、奈良県市長会、奈良県町村会、
奈良県中小企業支援センター

【協力団体】: 奈良県警、帝塚山大学、奈良先端技術大学院大学、富士通(株)
NTT西日本(株)、日本電気(株)、近鉄ケーブルネットワーク(株)